

平成30年度 第2回四万十町人づくり委員会 会議結果（要旨）

日時：平成31年3月18日（月） 10:30～12:00

場所：四万十町農村環境改善センター 大会議室

〔出席委員〕 佐竹 孝太、田邊 法人、岡村 健志、吉本 悦子、門舛 俊也、
岡田 光司、中野 千里

〔欠席委員〕 武田 伸也、川添 節子、新井 みなみ、松岡 千津恵、
小野川 貴江

【会議次第】

1. 開会
2. 議事
 - 1) 平成30年度事業説明について
 - ・未来塾（四万十町高校応援大作戦他）
 - ・四万十塾（イノベーター養成講座他）
 - ・産業振興塾（農業者ネットワーク他）
 - 2) 平成31年度当初予算について
3. その他
4. 閉会

【会議結果】

（事務局）

只今より第2回人づくり委員会を開始する。欠席の連絡を武田委員・川添委員・新井委員・松岡委員・小野川委員より、少し遅れると佐竹委員より報告があった。今後の進行は、田邊委員長にお願いする。

（田邊委員長）

では、第2回人づくり委員会を始めます。議事のとおり、今年度の事業報告と来年度の当初予算が大きな議題になるので、その検証と議論をお願いする。では、事務局に事業報告の説明を求める。なお、質疑については事務局から全て報告した後に行う。

(事務局)

事務局説明 「未来塾」「四万十塾」「産業振興塾」の事業報告 (資料 P1～P7)

(田邊委員長)

以上、3つの塾の説明をさせたが、何か質問はないか。

(岡村副委員長)

1 ページの町営塾「じゅうく。」で、トピック的な活動の具体例はないか。以前は、ドローン教室等の報告もあったが、そういうものがあれば。

(事務局)

「じゅうく。」でのトピック的な活動はないが、探求的な学習の時間を設けている。昨年4月から月1回の頻度で開催しているが、興味関心の部分で「宇宙」「アート」「ファッション」等をテーマに行った。また、春休みや夏休みに「春スペ」「夏スペ」と題し、英語や数学に特化した学習機会も設けている。ただ、昨年度のように外での活動等は行っていないのが現状で、来年度は何らかの形で開催したいと考えている。

(門外委員)

同じ未来塾になるが、高校生向けの町内企業の合同説明会や町営塾、総合的な学習の時間への参画等で、町や生徒の声として、それぞれどういった手ごたえがあったのか。良い取り組みと客観的に見ても思うので当事者の本音を知りたい。

(事務局)

企業説明会は、現在、企業と生徒を対象にアンケートを行ったので、次回にアンケート結果の報告をする。ただ、何社か個別に聞いたが、このような機会は本当に良かったと言われている。また、昨年度は企業の代表者や社長が説明していたが、今年度は中堅職や若手がプレゼンしており、会社の受け止めも変わっていると感じた。なお、にぎわい創出課と協議をしているが、この取り組みは来年度以降も開催したいと考えている。

(門外委員)

社長が話す事と中堅・若手が話すのでは、内容も随分変わるのではないかと思うが、今年度の方が生徒に良かったという点はないか。

(事務局)

率直に言うと、窪川高校の卒業生や、町に縁のある方が期待を込めて話をされてい

たので、よりストレートに高校生は受け止めたのではないかと思う。

(田邊委員長)

補足になるが、企業側も自社のアピールだけではなく、地域の未来を託す人材に対して語る事が多かったと感じた。普通の企業説明会では、福利厚生等に特化した説明が多いが、生徒に対するエールも多く、自分も励まされたし、町の未来にある程度危機感を持っている事がわかった。そのあたりが非常に魅かれた。あとは、生徒側では両校とも消極的な子が多いと思っていたが、積極的に話をしており、またに人数も少ないので各ブースを十分回れたようだ。今回のように教員とは別の大人との交流は、体験だけでも大きなステップだし、一歩踏み出す体験が色々な場で用意される事は、行動力や主体性も育まれ、自分自身の自尊感情を高める事にも良いと思った。他に意見はないか。

(事務局)

事務局から提案してもよいか。

(田邊委員長)

どうぞ。

(事務局)

農業者ネットワークで説明したが、先日の視察研修に佐竹委員と岡村副委員長に参加してもらったが、何か気づきがあれば教えてもらいたい。

(岡村副委員長)

四万十町には、私と須藤(地域協働学部・講師)が受託研究事業で関わっているが、二人とも何か協力できたらと思っている。農業者ネットワークは、正直動きが遅いと思うが、最近、こういう場がある事が非常に大事という事を理解してきた。元々、私は売り上げや行動する事に興味があり、早く売り先を確保する事ばかり急いでいたが、様々な農業政策に関わる中で、新たな場を作る事が重要と実感するようになった。上手く説明できないが、視察研修をする事は一人一人の思いを実感できる事が重要だと感じている。また、視察の感想としては、少子高齢化・過疎化が進んで農家が減る事を我々はどうするか考える良いチャンス。耕作放棄地が多くなる時に、それを運用できる新たな産業づくりやビジネスチャンスがある中で、我々の農業施策をどうするか、このチームが考える場でもあるという実感を持った。

(佐竹委員)

今回は、自然栽培農家に研修に行ったが、圃場に持ち込むのは植える種と苗だけ。

農薬も肥料も入れない。そんな圃場にするためには5年間かかり、麦やソルゴー等を植え、過剰になった窒素分を抜くことで農薬や肥料のいらぬ圃場へ転換をする。これまでは周りの批判も受けたが、現在は収益も非常に良く、収穫がそのまま売りに繋がっている。自分も4町くらい生姜を栽培しているが、肥料や農薬に多くの経費がかかっている。資機材への投資も高額になり、これが過剰になると新しく農業を始める事が難しくなる。ただ、子ども達に何かを残していく事を考えると、他地域にない事を行う事が大事で、以前から自然栽培に関心があったが、今回の研修で実感した。だから、まずは始めてみよう。研修先でも言われたが、地方や地域によってやり方が違うので、自然栽培だけやるのではなく、有機栽培や農薬や肥料を1回だけで済ます方法もあるので、四万十町でやれるか研究する価値はある。これから機械化も同時に進めるが、耕作放棄地が増える・人手が減るなかでジャストフィットするのではないかと思う。まずは、話を聞くだけではわからないので、自分たちが町と連携しながら行う事が良いのではないかと思う。門外委員もいるが、これからの農業は投資や資金運用も勉強する必要がある。学んだ事に投資をして実行する事が大事で、今回は良い研修が出来たと思う。ただ、実行しようとする人が研修しないと、学びが行動に変わらない。何度も研修して意識を変えるやり方もあるが「いいな」くらいしか思わない方が研修しても何も生まれない。そんな警告は、若手にも伝えなければいけないし、子どもや今後農業をする人にも繋がる。本気で考えないといけないと思った。

(田邊委員長)

他に質問はないか。

(佐竹委員)

四万十町の「食の商談会」は、実際取引に繋がった方はいたのか。

(事務局)

商談会後の確認は行っていないが、今後四万十町フェア等を計画している企業があるので、関係性を築きながら取り組みを進めていく予定である。

(佐竹委員)

先日、あるシェフが四万十町に来ていた。会議だけでなく、他の委員とも交流できる機会を設けたらと思ったし、違った見方が生まれるのではないか。また、色々な農家が東京に出品したり、学生の活動等にも繋がり、商品売り出す仕組みを作れば良いと思う。

(田邊委員長)

他に質問はないか。では続いて、平成31年度の当初予算の説明を事務局にお願い

する。

(事務局)

事務局説明 平成 31 年度当初予算について (資料 P8～P12)

(田邊委員長)

平成 31 年度の予算説明で、何か質問はないか。

(門舛委員)

ビジネスプランコンテストの事業委託を、もう少し詳細に説明を。

(事務局)

ビジネスプランコンテストの運営は、一昨年度は全て事務局が行っていたが、継続して事業を発展させる団体を見つけたいと思い、今年度は運営の半分を委託した。その経過を踏まえ、全業務を委託できる見込みが立ったので、全ての業務を外部委託する計画である。

(門舛委員)

どちらの団体に委託する予定か。

(事務局)

来年度の委託先は未定。

(田邊委員長)

他に意見はないか。

(岡村副委員長)

以前から四万十町に、まちづくりを担う NPO 法人があれば良いと思っていた。役場だけがまちづくりをするのではなく、町民がまちづくりをしても良いのではないか。そういう時に、町内にまちづくり NPO が出来た事は大きな武器になるし、そういう団体が町の企画を実施する事も勿論良いが、これからは彼らのまちづくり企画を実現するフェーズも考えていく必要がある。また、来年度の予算の範囲内でできる事になるが、人材育成に私も関わるなかで、人材育成は「ヤル気と行動力への投資」だと思う。ヤル気と行動力が担保でき、それに対して投資をかけると成果が生まれる。我々は、伴走型支援をする立場で直接教える訳ではない。実現するのは受講生で、そうになると個人個人のヤル気・行動力・能力等で成長スピードは変わってくる。今、事業は3年経ったが、もうすぐ芽が出る者や、まだ蓄えているばかりである時グンと伸びる者も

いるかもしれない。そういう意味でも、人材育成事業にもっと投資をするのか、もしくは止めるのかを何処かで判断する必要がある。そのためにも、人材育成事業で投資を続けている島根県雲南市等の先進地を訪ね、「この事業を3年やってみたらどう思うか。」「もっと続けたいと聞けないか。」等の調査やアドバイスをもらったらどうか。また「見える化」もキーワードになっていて、非常に良い事をしているので、パンフやWEBだけではないが、こんな成果が出ているとか、こんな人材が育っているという事を、少し視覚的にアプローチしてはどうか。それは我々高知大も一緒にやるという提案。特に未来塾は、四万十町の高校に進学すれば色々なメニューがある。これを窪川高校のHPに掲載されていたら魅力だと思う。そういう魅力を、魅力としてキチンと伝える事もできれば。

(事務局)

必要な方に必要な情報を伝える事も大事で、議会でも費用対効果はどうかと言われている。ただ、費用対効果を見つけ出す検証項目自体も、人材育成事業では難しく、先進地等で勉強できればと思っている。また、岡村副委員長の支援もお願いしたい。

(岡村副委員長)

ただ、ヤル気のある人だけに投資をと言うのではなく、現在はヤル気のある人を我々が発掘して投資をしているが、次のステージでは「少しヤル気はないけど、でも何かしたい」という人に対してアプローチしなければならない中で、どれだけの時間と投資をかけられるのか考えなければいけない。

(田邊委員長)

人材育成は教育と同じ部分もあるが、「教育の効果」が数値で測れる部分と測れない部分があり、3年以内に結果が出るなら分かりやすいが、岡村副委員長の言った通り人によってフェーズや成長の段階が違う。投資に対してリターンがどれくらい出ると見えない部分もあり難しい。佐竹委員が言ったように農業がビジネスと一緒になる部分を窪川高校農業コースの生徒に見せる事や、中学生に還元する事でその世代の農業に対する捉え方が変わると思う。そんな仕掛けは、色々な連携をする事で教育カリキュラムに落とし込める事が結構あると思った。それらが個人のヤル気や成長に繋がり、数値ではない違った変容を捉えられるのではないかと思った。

(岡田委員)

高校生のための合同企業説明会は、高校生に地元企業を知ってもらう良い取り組みだと思う。どの企業も人が足りないと言われている。今回は17社だったが、参加するしないに関わらず、町内企業への取り組みの認知も含め、呼びかけをお願いしたい。商工会も広報等で協力できるので。

(田邊委員長)

他に質問はないか。

(岡村副委員長)

これだけ人材育成に投資をしている町はないと思う。しかも、場づくりもしっかりと行いながら、受講者を次のステップに繋げる仕組みを戦略的に行っている町はなかなかない。だからこそ「しっかりやっているんだ」という PR が我が町にとって必要であり、日本にとっても必要だと思う。これは皆が見習わなければいけない。それらを含め「(人材育成について) 私たちはこんな考えでやっている」という事をしっかり PR する事が大事。日本の未来のためにも。

(門舛委員)

その通りだと思う。取り組みが良い方向性を示している。

(岡村副委員長)

そういう事は(高知大の)須藤に広告塔になってもらったら良い。彼は、国内の人材育成事業や場づくりに精通しており、その中で四万十町のポジションがどの辺りかを聞くとかも良い。そうする事で、これからも自信を持ってやれる事が増えてくるかと思う。是非やろう。

(中野委員)

昨年や今年の町内中学生は、町外高校へ進学が増えている傾向があると感じているが、実際町内高校への入学者はどうなっているのか。

(田邊委員長)

今年の入試が全て終わってないので、全部は話せないが決して良くない。

(中野委員)

子ども達は、自分の将来を考え、進みたい学科を選択して進学していると思うが、町内高校への進学率が良くない場合、高校生は勿論だが、中学生に進路を考える時期に何らかの取り組みも必要ではないか。(人材育成事業は)町内高校や町内企業に残って欲しいという意味合いもあると思うが、この町の良さやここで暮らす事や働く意義を中学時代から体験する事も良いと思う。現在は、職業体験等で中学生の受け入れをしているが、その流れでアルバイトに来た生徒もあり、その生徒は四万十高校に進学し、この春私たちの会社に新卒で入社した。そのような事例もあるので、もう少し中学生時代に現場体験だけじゃない何か取り組みがあればと思う。

(事務局)

中学校の職業体験は、職場見学的な意味合いも強いが、本当に興味のある仕事を体験できるか職種が限られる本町においては難しい部分もある。ただ、中学校と高校が繋がった時に、高校は一步踏み込んだ職業体験ができたらと思う事も含め、教育委員会が「ふるさと教育」という方針を検討している。そこで、小学校・中学校・高校の体験的な学習を系列立てて考えているので、そちらへも今後是非アドバイスをお願いしたい。

(田邊委員長)

吉本委員は、何かないか。

(吉本委員)

町広報を見ると、毎月の出生者数の3倍・4倍の町民が亡くなっており、少子高齢化を実感している。また、先日の窪川高校同窓会の総会も出席者の高齢化や減少が続いているが、総会が開催される事を知らない人も多い。私の母校が窪川高校でもあり、「窪川高校がんばれ」という気持ちを込めて「3年坂」のTシャツも購入した。ただ、例えば梶原高校は、野球部等の取り組みにより今年も18人の生徒が町外から進学したようだ。また、小・中連携に高校も加えた取り組みの結果、地元高校への進学率も増加しているようだ。だからこそ、すぐに成果が出る訳ではないが、窪川高校でも希望大学に進学できる等、何らかの取り組みを行う必要があるのではないか。

(佐竹委員)

そういう想いはある。農業者を増やすのであれば、22・23歳で新車に乗るくらい稼ぐ若者がいないと魅力がない。農業は、苦勞する事は目に見えている。だから兼業農家が、自分の子に農業とは別の道を勧めた結果、若い年代の農業者が少なくなったと思う。ただ、その方たちはヤル気があっても米の値段も安く苦勞も多いので勧めなかったと思う。ただ、しっかりと魅力を伝えた方は、その子が農業を継いで残っていると感じるし、借金も背負いながらも投資をして、成長しようとした農家には後継者が残っていると思う。しかし、高卒5年くらいで、年収が5、600万あるなら、農業に魅力を感じるし、ヤル気や熱意があっても結果が伴う形にならないといけない。先日の研修先の農家では、25歳の従業員にも月40万支払っている。当然、それだけの収益も上げているが、その分を還元する事で従業員も一生懸命働かし、責任やヤル気も生まれる。お金が全てではないが、これからの農業も経営的な視点を持たなければならない。また、リーダー人材だけでなくフォロワーと言われるリーダーを支える人材も養成していく必要もある。四万十町はそんな資質を持つ人材も多い。また、それぞれの資質ややりたい事に応じて、進む先を考えられる取り組みも学校等でできれ

ば。そうする事で、学ぶ意義も感じるし、高校で学ばしてくれる親への感謝も芽生えてくるかと思う。そして、ヤル気のある人や何かしたい人を見つける事も5年くらいは必要だと思うし、そのような人材は背中を押す事で成長するので、未来塾も卒業した生徒を10年くらい追跡し、悩んでいる所や困っている事等をフォローしたら良い成果が生まれるのかもしれない。成功者や輝いている人ばかり見るのも辛いし、そうじゃない人の方が多いのが現状だから。また違ったやり方では、この日は窪川高校に自分が座り、生徒がいつでも話を聞くことができるとか、この日は窪川高校に起業している人が座り、生徒が色々な話を聞いたりすると子ども達に何かヒットするかもしれない。色々な大人が関わることによって、その子自身に変容するかと思うので、自分もできる限りは応援したい。

(岡村副委員長)

農業を継ぐ事を「就農」っていうが、一般的には「起業」だと思う。高校出た18歳の子に起業しろと言う訳で、それは農業継いで当たり前とか、就農してもらわないと言うのは簡単だが、本人にとっては大問題だと思う。当たり前でないという前提の下で、起業マインドをどう育てるかや、どう接していくかを考えていく必要があると思う。いきなり農業やれと言われても自分は大変困る。

(佐竹委員)

本当に農業は厳しい。ただ、窪川高校には農業コースがあり、自分も母校なので良い方法はないかと思っている。高校生がやると周りも協力するし「高校生が頑張っているんで自分もこの作物作ろう」となるかもしれない。それが子どもにとっては勉強になると思う。

(岡村副委員長)

そういう色々なモノを見せてあげないといけない。特に子ども達には。

(田邊委員長)

他に何かないか。ちょうど時間になったので、これで第2回の人づくり委員会を終了する。

- 12時05分終了 -